

# 令和二年度 奈良県知事賞

## 「税金の大切さ」

奈良県立榛生昇陽高等学校 一年 神田 海玖

私は、この作品を書くまで税についてあまり興味がありませんでした。税金というものをなぜ国に納めなくてはいけないのか、もし税金が無かったら10%も物が安く買えるのではないのか、私たちの年代からすると一番身近な消費税、今はあまり関わりがない住民税や所得税を払ってばかりで損をしているのではないかと思っていました。でもその事を母に言うと、税金がないと、今よりももっと生活に困るということを知りました。

例えば、税金を財源として提供される公的サービスが有料になってしまうこと。医療費では、税金がなかったら3割負担ではなく全額負担になり、莫大な医療費を払わなければならなくなります。私も曾祖父が入院をくり返しているのです、そのような事になるとお金がなくなり入院できなくなってしまうのでとても心配になります。そして、警察に、困ったときに相談するのも有料になります。そうするとパトロールするのに〇〇円、道案内に〇〇円となると誰もが警察を呼ばなくなり、治安が悪くなり、犯罪も増えると思います。そして警察に助けを呼ぶのが有料になるのだから、もちろん救急車も同じで有料になります。急に倒れて救急車で運ばれて、目が覚めると病院にいて、救急車使用料として多額の請求がくるかもしれない。もしこんな世の中になったら、裕福な人だけが豊かなサービスを受けられることになります。

こんな不公平な事があってはならないから、税金という仕組みがあるのだと知りました。税金のおかげで、公平なサービスを提供することができ、国や地方は税金という形でこうした公共サービス、施設の提供費用を調達しているのです。だから、国民は公共サービスを無料で利用できているのだと分かりました。

勉強してきて思うことは、税金というものはとてもすごいということです。私は生まれたときから「税金」が当たり前のようにあるので、あまり深くは考えてはこなかったけれど、税金はなくてはならない仕組みなのだと考えさせられました。3世紀のはじめの邪馬台国で税として食べ物を集めてきた頃から現代の今まで、色々な形で国民は税を納めてきました。税の重要性について理解し、無駄遣いさえしなければ、国民はきっとこれから待ち受ける増税を受け入れてくれると思います。そうすれば、今以上に良い税の仕組みができ、よりよいサービスが受けられることに違いないです。したがって、納税はなくてはならない義務なのです。